

Marriage and funeral in contemporary China : a case of the rural Xuzhou area

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/25367

現代中国における婚礼と葬礼

——徐州市周辺農村を例として——

人間社会環境研究科 人間社会環境学専攻

山 本 恭 子

Marriage and Funeral in Contemporary China

— A Case of the Rural Xuzhou Area —

YAMAMOTO Kyoko

Abstract

Although it is officially reported that marriage and funeral have been simplified and that superstitious rites have been abolished under the PRC resume, the actual situation in contemporary China is not clear enough.

Based on the fieldwork which I carried out in the rural Xuzhou area, Jiangsu Province, September 2008, this paper describes the present status of marriage and funeral in terms of the changes from the traditional rites.

There are two main findings. One is that there are still not a few traditional ceremonies and rites, which are handed down by the person called “dalaozhi”, and that they are still maintained and performed in spite that their manners have been changed to a varied degree depending on villages or towns. The other is that the ceremonies and rites in the rural area tend to be organized by commercial organizations, as conformed with those in the urban area. Even though the ceremonial and ritual manners may change more in the future, the important parts will probably remain unchanged.

Key Words

Contemporary China, Marriage, Funeral, Xuzhou

0. はじめに

中国における漢民族の婚礼、葬礼の形態は歴史的に見れば、『儀禮』、『禮記』などの經典や、朱熹『家禮』等に則り、歴史的、地域的な変化をしながら伝えられ、行なわれてきた。それらの習俗は一般に「地域により異なる」とされているが、実態は明らかではない。

県志、市志等地方志における婚礼、葬礼の記述の多くは、「建国前」、「旧時」に行なわれていた

伝統的儀式について記されている。「建国後」、「現在」の婚礼、葬礼について、婚礼は1950年発布の「婚姻法」以後、変化をしたとされ、葬礼については中央政府、及び各地方政府が“殯葬改革”を行い、「封建的儀礼は行なわれなくなった」、「迷信的儀式は排除された」等と記されている。葬礼については、火葬を提唱、推進していること、火葬場建設年や、具体的な火葬率を記しているものも多い。¹ そのような地方志の記述からは、伝統的婚礼、葬礼儀式は建国後、大きく変化をしてい

るように思われる。

果たして中国における婚礼, 葬礼はどのように変化をしているのだろうか。現在の婚礼, 葬礼儀式の実態の一端を明らかにするべく2008年9月8日から19日, 江蘇省徐州市の周辺農村において調査を行った。本稿では調査によって得られたデータから現在の婚礼, 葬礼儀式の実態を明らかにし, その変化の様相について考察することを試みた。

なお, 本稿においては中国語地名, 儀式名, 文獻書名, 中国語引用文については繁体字を用いて表記する。

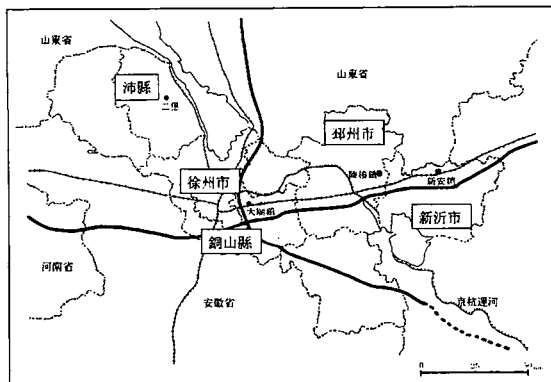
1. 徐州市周辺農村における調査

1.1. 調査地域と調査方法

徐州市(地図1)は江蘇省の西北部に位置し, 安徽省, 山東省と接している。人口約917万人, 面積約11200平方キロメートル。中国を東西, 南北に貫く二本の重要な鉄道幹線, 京滬線と隴海線が交差する鉄道の要となっているほか, 北京から浙江省杭州まで中国を南北に貫く京杭大運河が通っている。行政区画としては, 泉山區, 鼓樓區, 賈汪區, 九里區, 雲龍區の5区と邳州市, 新沂市の2県級市, 豐縣, 沛縣, 睢寧縣, 銅山縣の4県を統括する。

調査は徐州市周辺の農村地域, 沛縣, 邳州市, 銅山縣, 新沂市で, 婚礼, 葬礼の進行に携わっている人から聞き取りを行った。沛縣は人口約118万人, 面積約1114平方キロメートル, 邳州市は人

(地図1) 調査地域 江蘇省徐州市



口約154万人, 面積約2075平方キロメートル, 銅山縣は人口約126万人, 面積約1857平方キロメートル, 新沂市は人口約96万人, 面積約1586平方キロメートル。いずれも人口の90%前後が農村戸籍である。²

主な調査協力者は以下のとおり。Aさん(72歳, 沛縣二堡在住), Bさん(70歳, 邳州市陳樓鎮在住), Cさん(65歳, 銅山縣大廟鎮在住), Dさん(44歳, 新沂市新安鎮在住)。調査協力者には事前に調査項目, 調査内容を示して依頼し, 各調査地点でインタビュー形式による聞き取り調査を行なった。婚礼, 葬礼において儀式の進行, 取り仕切りを行うのは男性であるため, 調査協力者は全員男性である。

1.2. 徐州市周辺農村における婚礼儀式

『儀禮』士昏禮, 『禮記』昏義, 宋代の朱熹『家禮』昏禮によると, 漢民族の婚礼は, “納采”, “問名”, “納吉”, “納徵”, “請期”, “親迎”の“六禮”という六段階の儀礼によって行くとされる。それらに則って行われる伝統的婚礼は, ①結婚の始まりに男女の相性を占う“合婚”, ②結婚の決定“定親”, ③婚礼の日を決定する“看日子”, ④婚礼の日を男方から女方に知らせる“送日子”, ⑤男方から女方へ結婚のための贈り物をする“過大禮”, ⑥女方から男方へ嫁入り道具を送り届ける“送嫁妝”, ⑦男方から女方への新婦の迎えである“迎親”, ⑧新婦の装いを変える“開臉”, ⑨新婦が男方からの迎えの轎に乗る“上轎”, ⑩新婦が女方を出る“出嫁”, ⑪婚礼の儀式“拜堂”, ⑫新郎新婦が夫婦の部屋に入る“入洞房”, ⑬親族, 友人らを招いて行なわれる結婚の宴“喜宴”, ⑭新郎新婦の部屋での祝い“鬧洞房”, ⑮男方が女方の親族を招いて行なう宴“會親”, ⑯新婦の最初の里帰りである“回門”という手順によって行なわれてきた。

このような伝統的婚礼について, 地方志には, 「建国以後, 《婚姻法》により自由恋愛が提唱され, 売買婚が禁止され, 法的手続きが行われるようになり, 婚礼が変化した」, 「婚礼儀式は旧社会に比

べ、簡略化されたものが多い」,「婚姻法の提唱と婚姻の自主性の保護により,“合年命”,“過啓柬”習俗はしだいに廃れた」等と記されている。³《中華人民共和国婚姻法》(以下《婚姻法》とする)は1950年5月1日に公布施行され,「婚姻の自由」,「一夫一婦制」,「婚姻における男女平等」,「女性と子どもの正等な利益保障」という四原則が規定された。さらに1980年9月10日《婚姻法》を改定した《婚姻法》(以下《新婚姻法》とする)が公布され,1981年1月1日から施行された。⁴調査地域では1950年《婚姻法》に基づいて“婚姻登記”を開始,さらに沛縣,新沂市では1980年以後,銅山縣では1985年以後,邳州市では1986年以後,各郷鎮に専門員を養成し,婚姻登記を行なっている。

地方志の記述ではこのような建国後の法的規定の影響を受け,婚礼が変化したとされるが,《婚姻法》,《新婚姻法》には婚礼の儀式についての直接的な記述は見られない。ここでは婚礼に際して行なわれる儀式,習俗の中で“看日子”,“送日子”,“送嫁妝”,“迎親”,“出嫁”,“拜堂”,“開臉”,“回門”について調査地域の状況を確認していく。

1.2.1. “看日子”・“送日子”

婚礼の決定は,“訂婚”という。この時,2通の書類を用意して男方から女方に持って行き,結婚の決定を伝える。これを“轉柬”といい,銅山縣では,1950年代末には行なわれていた。これは現在の婚姻登記に相当する儀式で,法的な効力はないが,現在の「結婚証」に相当する書類を男女双方が1通ずつ持つ。この時,男方は贈り物,現金などを一緒に女方へ持ってゆく。

婚礼の日取りを選ぶことを沛縣では“擇日子”,邳州市では,“擇日子”,“擇吉”,銅山縣では“看日子”,新沂市では“看日子”,“合日子”という。

婚礼の日取りは男方が“陰陽先生”といわれる専門の人に頼んで見てもらう。“陰陽先生”は陰陽五行による占いを職業とする人であるが,邳州市では,婚礼の際は“陰陽先生”とは言わず,“合婚先生”と呼ぶ。“陰陽先生”は新婦の“生辰八字”,或は男女の生年月日,或は男女の属相によ

って日取りやその婚礼についての忌み事,吉方位などを占う。⁵

決定した日取りを女方に伝えることは,沛縣では“送柬”,邳州市では“送日子”,或は“送喜柬”といい,銅山縣でも“送日子”,新沂市では“出貼子”という。女方に知らせる際は,赤い紙に婚礼の日取りと,“陰陽先生”が示した婚礼に際しての忌み事,新婦が化粧をする時刻,女方からの出発時刻,轎など乗り物に乗る際の方位等が記された書状を持って行く。邳州市では書状は2部作成し,男方,女方が互いに持つ。この書状は,沛縣,邳州市では“喜柬”,新沂市では“大紅包”,或は“年目貼”という。一旦決定された婚礼の日取りは,家族の死,本人の病気など特別な場合を除き,変更することは殆どない。

赤い紙の書状による“送日子”は,文化大革命の頃まで行なわれていたが,現在は新郎が新婦に直接伝えるなど,簡略化されている。しかし,“看日子”は現在も“陰陽先生”に頼み,占いによって日取りが決定される。

1.2.2. “送嫁妝”

“送嫁妝”は婚礼の際,女方によって準備される嫁入り道具“嫁妝”を男方へ送る儀式である。⁶“嫁妝”には新婦の化粧道具をはじめ,婚家で新婚夫婦が使う家具などが含まれる。新沂市では“大八件”といわれる8種類の品を準備する。以前は大小の筆筒,机,八仙卓,化粧台,盆,灯などであったが,現在では,電化製品やソファなどの家具を準備する。沛縣では“嫁妝”の数には,8種,13種,24種,32種の違いがあり,その規模は男方からの結納の多寡や各家の経済状況によって異なる。

“嫁妝”には上記のような実用品の他,必須の品として婚礼当日に新婦が食べる麺と菓子が準備される。この麺は沛縣では“喜麵”,銅山縣では“挂麵”,邳州市では“長生麵”,新沂市では“過路麵”といわれる。この麺は,婚礼の日,男方での婚礼の儀式,“拜堂”が終り,新郎新婦が新夫婦の部屋に入った時(“入洞房”という),新郎の

兄嫁、叔母（父の弟の妻）によって調理される。麺は生煮えの状態で新郎新婦が形式的に食べる。この時、調理した人が「生不生？」（「生 shēng ですか？」）と尋ね、新婦が「生。」（「生 shēng です。」）と答える。「生 shēng」には「生煮え」という意味と、「子どもを生む」という意味があり、新夫婦に早く子どもが生まれることを祈る習俗である。

菓子は、沛縣、銅山縣では“果碟”，邳州市では“團圓餅”，新沂市では以前は“富貴糕”，現在は“雲片糕”という。この菓子は婚礼の翌朝、新婦が舅姑に挨拶をする時、茶とともに持って行く。

“嫁妝”はいずれの市、県とも婚礼当日、新婦が男方へ行く際に一緒に運ばれる。男方へ向う行列は，“嫁妝”が先に運ばれ、その後から新婦を乗せた輦が続く。現在、新婦は自動車に乗って男方に行くが、順序は変わらない。ただし、大きな家具は事前に新居に運ばれるようになっている。

“嫁妝”を運ぶ責任者を銅山縣では“扛頭兒”，邳州市では“行人”，“押嫁妝的”という。“嫁妝”を運ぶ責任者は、男方到着後、新婦が乗り物から降りる前に“妝奩單”（嫁入り道具の目録）を男方に渡し、男方と祝儀（現金、煙草、飴など）について交渉を行うが、交渉が成立しないと次の儀式に移らない。

“嫁妝”は生活の変化とともに準備する物品は変化しているが、現在も麺や菓子を持って行くことは変わらない。また、婚礼当日に男方に運ぶという習俗も同様に行なわれている。

1.2.3. “迎親”，“出嫁”

婚礼当日、男方は女方へ行き、新婦を迎える。これを“迎親”という。男方からの迎いの乗り物は、以前は輦、現在は自動車になっている。⁷

銅山縣では以前は、新郎自身は新婦を迎えに行かず、“媒人”（媒酌人）と、輦、輦かきが、“領親”，“主事的人”といわれる役割の男性（男方の家族の中で権威があり、儀式について詳しい年配の人）に率いられて女方へ迎えに行った。この時、新婦の婚礼衣装（“上頭的衣服”という。赤い服と、富家では“鳳冠”等も含む）や、新婦が婚礼

の身支度のために用いる櫛や、新婦の身支度の時に鳴らす爆竹“上頭鞭”や祝儀として配るためのタバコ等が入っている箱（“上頭盒子”）を持って行く。また、“壓輦”といい、輦には雄鶏を1羽抱いた男の子を1人坐らせて行く。⁸ 邳州市、新沂市でも新婦の婚礼衣装（以前は“催妝衣”といい、現在は“過路衣”という）を持って行く。新沂市では“過路衣”と、栗、棗、落花生、麦麩、万年青、葱、櫛、鏡、2本の赤い針、2個の赤い卵、2本の赤い蠟燭等が入った“上頭盒子”の他、“長命鶏”といわれる活きた雄鶏と、新婦が乗り物に乗る際に用いる赤い座布団を持って行く。座布団の四隅には「早生貴子」（早くよい子が生まれるように）の意味で栗、棗、落花生を入れる。⁹ 本調査地域では新婦の婚礼衣装は、現在も同様に男方が準備し、婚礼当日“迎親”の際に女方に贈る。

沛縣、銅山縣、新沂市では、新婦が男方からの迎いの乗り物に乗って女方を出る“出嫁”の時、「新婦が土を踏んではいけない」とされている。新婦の足に土がつくことを忌み、それを避けて乗り物に乗せることは、調査地域以外でも広く見られる習俗である。土は万物を生み出すことができるもので、黄金をも産み出すことができるとされ、新婦が実家の土を足（靴）につけて男方に持って行くと女方の財運を持って行ってしまおうと考えられているためである。沛縣でも以前は富家では赤い毛氈などを敷き、その上を歩いたということで、同様の考え方があったと思われる。

銅山縣、新沂市では以前は兄か弟が背負って新婦を乗り物に乗せていたが、10年ほど前から新婦を背もたれのない椅子にさせ、2人で担ぐようになっているという。邳州市では新婦の兄か弟が通常の抱き方とは異なり、新婦の膝を折り曲げた状態で抱いて乗せる。ここでも椅子を用いることもあり、兄弟がいない場合は地面にゴザ、或は赤い毛氈を敷き、新婦はその上を歩いて乗り物に乗る。沛縣では特に決まりはない。

今回の調査で最近（約10年前から）の変化として「椅子を用いる方法」が取り入れられているこ

とが確認できた。この「椅子を用いる」という方法は、河南省から山東省にかけての地域で地方志に同様の記述が見られる。¹⁰

1.2.4. “拜堂”

新婦が男方に到着すると、新郎新婦は婚礼の儀式、“拜堂”を行う。“拜堂”儀式は『儀禮』、『禮記』には記述が見られない。宋代の朱熹『家禮』には「婿婦交拜」と記されており、その注には「婿が婦に拱手し、席に着く。婦は婿を拝し、答拝する」とある。¹¹ 本調査地域で行なわれている「一拝天地、二拝父母、夫婦対拝」という“拜堂”の方法は元、明代に行なわれるようになり、今日まで同じ形式が続いている。¹² この儀式を、沛縣では“拜堂”といい、銅山縣、邳州市、新沂市では“拜天地”という。

“拜堂”は、“堂屋”（家の中心となる建物）の前庭に卓を置き、新郎新婦がその前に並んで立って行なわれる。卓の上には、左右に赤い蠟燭、中央に線香、斗が置かれる。斗の中にはトウモロコシ、小麦、高粱のいずれかを入れる。邳州市、銅山縣ではそこに秤を挿し、縁に赤い紙を貼った鏡を置く。¹³

新郎新婦は、“司儀”、或は“主事”、“喝彩”と呼ばれる儀式をとりしきる人の「一拝天地、二拝高堂、夫妻対拝」という声に従ってそれぞれ叩頭する。銅山縣では、まず、爆竹とラッパを鳴らし、“領親”が卓のところで叩頭する。続いて新郎新婦が天地、父母に叩頭し、最後に互いに叩頭する。

この時、沛縣、銅山縣では新婦が東に、新郎が西に立つ。位置として伝統的に上位は東、或は左とされており、通常、男女が並んで立つ場合は男性が東、女性が西となる。しかし、銅山縣では新婦は“拜堂”を行い、“洞房”（新郎新婦の部屋）に入る前は「客」という扱いであるため新婦が東に、新郎が西に立つという。この時、新郎の父母は、父が東、母が西に立つ。沛縣でも新婦は生涯の中で、この時だけ上位に立つことができる。邳州市、新沂市では、新郎が上位である東に、新婦が西に立つ。「新婦は“洞房”に入る前は客」と

されている地点では、男方にとって“拜堂”前はまだ“兒媳婦”（息子の嫁）ではないということである。

“拜堂”が終わると新郎新婦は新夫婦の部屋である“洞房”へ入る。“洞房”では新婦がかぶっている“蒙臉紅子”（“蓋頭”）を新郎が取る、新郎新婦が半生に調理された麵を食べる、沛縣、銅山縣では“交心酒”、邳州市、新沂市では“交杯酒”といわれる酒を飲む、“開臉”（後述）等の儀式が行われる。

“拜堂”は邳州市では行なわないこともあるが、各地点では基本的には婚礼の儀式として現在も行われている。家ではなく、レストランで宴を行なう場合、そこで行なわれることもある。

1.2.5. “開臉”

“開臉”は、婚礼に際し、新婦が未婚の娘から既婚女性へと装いを変える儀式である。沛縣、邳州市では“絞臉”、銅山縣では“出臉”、新沂市では“開臉”という。

婚礼に際し、成人の装いへ変化をさせるという儀式は、子どもが成人したときに行われた“冠笄禮”が廃れ、その遺風のみが伝統習俗となって民間に広まったものとされる。¹⁴ “開臉”は、年配の女性が赤い絹糸、或は木綿糸を使って新婦の顔のうぶ毛を抜き、細い眉をつくり、額の形を整えるという儀式で、その装いによって既婚女性であることを表わす。

“開臉”は、“出嫁”前、新婦の婚礼の身支度の中で行われる地点と、男方で“拜堂”をした後に行われる地点とが見られる。本調査地域の中で、女で行われるのは新沂市で、新婦の叔母（父の弟の妻）、或は兄嫁が行う。沛縣、邳州市、銅山縣では“拜堂”が終わった後、男方の女性の手によって行われる。¹⁵

“開臉”の際、いずれの市、県とも2個の赤く染めた卵を新婦の顔の上を転がす習俗がある。邳州市では“開臉”を行う女性が赤く染めた卵を転がしながら「紅雞蛋、滿臉轉、今年吃你吃果子、明年吃你吃米飯」（赤い卵よ、顔じゅうを転がっ

て、今年は果実を食べ、来年は米の飯を食べよう」と歌う。これは婚礼を祝い、翌年の子どもの誕生を祈る歌だという。

婚礼の中では新郎新婦が半生の麺を食べる習俗や、栗、棗、落花生など「早生貴子」（早くよい子が生まれること）を祈り、それを象徴する食物を用いる習俗が見られるが、卵もまた子どもを象徴している。¹⁶ 息子の嫁となった新婦には子どもを生み、家族の繁栄をもたらしてくれるという期待がこめられる。“開臉”は、本来、女性の成人儀式であった。それが婚礼の中に組み入れられ、新婦に早く子どもが授かるようにという祈りをこめて行なわれる儀式へと変化をし、子どもを象徴する卵が用いられるようになったのであろう。新沂市では女方で“開臉”が行なわれるが、男方から“上頭盒子”に入れて届けられた卵を用いる。卵にこめられた意味は他の市、県と同様であると考えられる。

“開臉”は邳州市、新沂市では30年から50年前までは行なわれていたが、現在は行われていない。沛縣では現在も行なわれ、銅山縣でも形式的に行なわれており、卵も用いるという。しかし、現在では女性の髪型、化粧も変化をしており、婚礼の際、新婦のうぶ毛を抜き、既婚者の装いに改めるという必要性は薄れている。

1.2.6. “回門”

“回門”は婚礼後、新婦が実家へ帰る習俗で、伝統的婚礼では“回門”の終了によって婚礼の儀式はすべて完了する。“回門”の方法は、婚礼の日から何日目に行われるか、女方からの迎えの有無、新郎の同行の有無等、異同が見られる。沛縣では“回門”、或は“叫親”という。邳州市では、“接短趟”と“回門”の2度行なわれる。銅山縣では“回門”、新沂市では“回門”、“回嬢家”という。

沛縣では以前は9日目の朝食後、女方から弟、甥（兄弟の息子）が迎えに来て、新婦は女方で数日過ごした。銅山縣では7日目に女方から男性2人（兄弟以外の家族）が迎えに来る。¹⁷ 新婦は

女方で8日間過ごし、婚礼の日から数えて15日目に男方へ戻る。この方法を“接七過八”という。¹⁸ 邳州市では新婦は2度実家に帰る。最初は“接短趟”といい、4日目の朝、新婦の兄弟、叔父（父の弟）の2人が迎えに来て、午後、男方へ戻る。2度目は婚礼の日から30日目（“满月”という）に迎えが来て、新婦は女方に帰る。これを“回門”といい、9日間滞在する。ただし、その期間内に月が替わる場合には、9日間経っていなくても月末までに男方に戻らなくてはならない。¹⁹ 新沂市では3日目、新婦の兄弟と叔父（父の弟）が2、3人で男方へ新婦を迎えに来る。ここでは“回門”当日、日没までに戻らなくては姑の目が悪くなるとされ、新婦は暗くなる前に男方に戻らなければならない。

“回門”を行う日は銅山縣では、文化大革命以後、3日目に女方から迎えに来て、女方で4日間を過ごし、7日目に男方に戻る“接三過四”という方法に短縮された。沛縣、邳州市では、約20年前から変化が見られ、現在は婚礼の翌日、新婦の弟、甥などが迎えに来て、新婦は実家で1泊し、3日目の午前中に弟、甥などが男方に送ってくる。これらの変化は、“回門”の終了をもって婚礼儀式が終了とされていることから、婚礼の期間が短縮化されたといえるだろう。

1.3. 徐州周辺農村における葬礼儀式

漢民族の葬礼は『儀禮』士葬禮、『禮記』喪大記や宋代の朱熹『家禮』喪禮に基づいた儀礼に則って行われる中で、“停屍”、“招魂”、“吊喪”、“殯儀”、“送葬”という順序が形成されていった。これらに照らして行われながら、それぞれの儀礼は、婚礼と同様、時代、地域によってそれぞれの形が作られていったと考えられる。

伝統的な葬礼では、①臨終を看取る“送終”、②遺体を安置して処置を行なう“停屍”、③遺族が喪服を着る“成服”、④親族友人へ死の知らせをする“報喪”、⑤土地廟へ死の知らせをする“報廟”、⑥遺体を棺におさめる“入棺”、⑦親族、友人による弔問“開吊”、⑧家での葬儀“家祭”、

⑨棺を運び出し、墓地へ送る“出棺”，⑩葬送の途中で行われる祭“路祭”，⑪墓地での埋葬，⑫埋葬後、墓地での祭“復三”，⑬7日毎に行なわれる供養の祭“做七”，⑭忌明け“除服”という手順で儀式が行われる。

中華人民共和国建国後、政府は伝統的葬礼からの改革を推進している。しかし、“殯葬改革”は全国一律に進められるものではなく、国の方針に基づきながら、実情に合わせた形で進められている。調査地域における葬礼はどのように変化しているのだろうか。ここでは“送終”、或は“停屍”の時に行なわれる“穿壽衣”、“火葬”、“入棺”、“入棺”前後に行なわれる“淨面”、“報廟”の際に行なわれる“送盤纏”、“出棺”について調査地域の状況を確認する。

1.3.1. “穿壽衣”

“壽衣”とは、死者に着せる死装束のことで、下着、シャツ、上着、ズボン、靴、帽子が含まれる。本調査地域では、男性用には濃い青、深い紫、深緑が多く、女性用には赤、こげ茶、藍色などが用いられる。生地は男女とも地紋があるもので、以前は絹、現在では化学繊維が中心となっている。1980年代までは綿入れのものを着せていたが、現在は綿入れではなくなっている。価格は1970年代末頃までは一式が100元程度であったが、現在は一般品で300元から400元となっており、高級品には700元、800元のものもある。“壽衣”は娘が購入、或は費用を負担する。

本調査地域ではいずれも臨終直前に“壽衣”を着せる（急な異変の場合は臨終直後）。中でも沛縣では臨終時に“壽衣”を着ていないと、その衣服を着てあの世へいくことができず、裸で行くことになるといわれている。着替えは男性には男性が、女性には女性が行ない、父には息子、母には娘が行う場合が多い。

邳州市では着替えの前に湯を用いて体を拭き、銅山縣では父は息子、母は娘が両手、両足、顔を洗う。新沂市では男性の場合は理髪して鬚を剃り、女性は髪を整えるだけで沐浴はしない。いずれの

市、県でも“壽衣”への着替えの前の“沐浴”は特に重要な手順とはされておらず、臨終までに時間的余裕があれば行うという程度である。これは臨終直前、危篤時の時間の限られた中で“壽衣”を着せることの方が重視されるためである。

病院で臨終を迎える場合、そこで“壽衣”を着せることはできないので臨終後に着せるなど、以前にはなかった状況はあるが、“穿壽衣”については大きな変化は見られない。

1.3.2. “火葬”

近年の葬礼に大きな変化をもたらしたのが火葬の実施である。本調査地域では火葬を行うことが一般的になったのは約20年前からで、現在すでに葬礼の儀式手順のひとつとして組み入れられている。²⁰ 徐州市には火葬を行なう施設は徐州市民政局に属する“殯儀館”が、市区に3つ、豐縣、沛縣、銅山縣、睡寧縣、邳州市、新沂市に各1つずつ設置されている。

臨終後、火葬までの間、遺体は“堂屋”（家の中心の部屋）の中央に置かれた“靈床”に安置される。“靈床”は木製の簡単なベッド、或は椅子2つに板を渡して布団を敷いて用意した臨時のベッドである。遺体には顔から胸、膝のあたりまでを覆う紙を掛ける。

徐州市では農村地区の人が死亡した際、自宅での遺体の安置は、3日を超えてはならないとされており、通常、火葬は臨終後2日目、或は3日目に行われる。“靈床”に安置されていた遺体は“火葬場”、或は火葬施設のある“殯儀館”に運ばれる。²¹ 運搬には“殯儀館”、或は民間組織の所有する“殯葬車”、“殯儀車”といわれる遺体運搬専用の車を用いる。

火葬場、或は“殯儀館”に到着後、沛縣では死者の息子、娘が遺体に叩頭する。邳州市では遺体の周りを息子、娘の夫、甥、孫の順に左回りに3回まわる。新沂市でも遺体を3回まわり、一人ずつ叩頭し、その後、もう1回まわって最後の別れをする。銅山縣では特に儀式はない。

火葬の所要時間は約40, 50分である。火葬後、遺族は人型の骨を目の当たりにすることはなく、小さく砕かれた“骨灰”を受け取る。“骨灰”は赤い布袋、或は赤い布を敷いた“骨灰盒”という容器に入れ、死者の息子が胸に抱いて家に帰る。²²

遺体を火葬場へ運ぶ時、沛縣、銅山縣では女性も同行するが、邳州市、新沂市では女性は同行できない。女性は火葬後、家に“骨灰”が到着した時、門の正面で叩頭して迎える。邳州市、新沂市では墓地への葬送の際も女性は同行できない。遺体の火葬場への運搬と墓地への葬送は「家から別の場所へ遺体を運び出す」という意味において同様の行為であると考えられる。“火葬”は約20年前から一般的に行われるようになった新しい葬儀の手順であり、葬儀に取り入れられる際、それまで行なわれていた儀式的規定が適用されたのであろう。

1. 3. 3. “入棺”

遺体を棺におさめる“入棺”は葬儀の中で重要な儀式である。現在は、先に述べたようにまず火葬を行なうため、火葬後の“骨灰”を入棺する儀式が行われる。火葬は臨終の日を1日目として2日目、或は3日目に行われることが多く、火葬場から“骨灰”を家に持ち帰るとすぐに棺に納める儀式を行う。“入棺”は沛縣では“盛殮”，銅山縣では“入殮”，邳州市、新沂市では“成殮”という。

棺の使用に関しては墓地となる土地が問題となる。徐州市においても市区では墓地の確保は困難で、火葬後の骨、灰は、“骨灰盒”に入れて“公墓”に埋葬される。²³ しかし、調査を行った農村地域では、埋葬する土地が確保できる場合、必ず棺を用いる。

調査地域では、棺は大きければ大きいほど、使用される木材が厚ければ厚いほどよいとされ、木材の厚さによって、“二四”、“三五”、“六六”と称される。1982年以前は、村に大工がおり製作していたが、現在は10数か村に1, 2店ある“棺材鋪”という店で購入する。

遺体を火葬場に運ぶと、それまで遺体を安置していた“堂屋”の“靈床”を撤去し、その場所に棺を準備する。火葬場から家に“骨灰”を持ち帰り、入棺する。現在、沛縣では“骨灰”を入れた“骨灰盒”のみを棺に入れる。火葬が実施される以前は、草木灰を紙で包み、棺に入れ（夏は草木灰を棺に直接まく）、布団を敷いて遺体を安置した。邳州市では、現在も遺体を入棺する際と同様に、敷布団を敷いて“骨灰”を入れる。銅山縣でも棺底に薄い布団を敷く。その上に7枚の銅銭を置き、麻の糸でつなぎ、“骨灰”を入れ、まわりには草木灰を紙銭で包んだものを置く。²⁴ “骨灰”は人の形になるように置く場合と、ただ置くだけの場合がある。また火葬の際、“壽衣”の上着を燃やさずにおき、“骨灰”の上にかける、或は上着を棺に敷いた上に“骨灰”を置いて着せるように包む等の方法がとられる。新沂市では薄い布団を敷き、麻の茎を3本と硬貨を7枚置いた上に“骨灰”を人形に置き、“壽衣”かけ、上に掛け布団をかける。火葬実施以前、棺内に草木灰（或は石灰）の紙包みを置いたのは、遺体の水分を灰に吸わせ、遺体をまっすぐにし、出棺の際、棺内の遺体を固定するためであった。

いずれの市、県でも女性は入棺の儀式を行う部屋で儀式が始まる前に礼を行い、額ずいて哭するが、直接入棺儀式に携わることはできない。

“火葬”が葬礼儀式の手順に組み入れられ、“入棺”儀式は遺体の入棺から、“骨灰”の入棺へと変化した。子孫は遺体であれ、“骨灰”であれ、経済的条件、埋葬場所などの条件が許せば、厚い木材を使った大きな棺に納め、埋葬することを望み、農村では現在も死者を棺に納めることは重要な儀式として行われている。

1. 3. 4. “淨面”

“淨面”は、入棺の前後に遺体の顔を水、或は酒で湿らせた綿などで拭き、清める儀式である。“壽衣”を着せる前に遺体を洗い清める“沐浴”は特に重視されていないが、“淨面”は「顔をきれいに洗ってあの世に行く」という意味があり、い

ずれの市、県でも必ず行なわれる儀式であった。

沛縣では以前は入棺の前に遺体の顔を覆っている紙を取り除き、長男がきれいな水でぬらした綿で、遺体の額から鼻筋にかけて上から下に顔を拭いた。現在は、火葬場へ運ぶ前に行く。遺体を清める際に用いる水には特にきまりはなく、井戸から汲んだ水や水道水を用いる。邳州市でも現在は“靈床”に安置している時に長男、或は年配の人が綿花、または柔らかい布で湯を使って遺体の顔全部を拭く。銅山縣では火葬が行われる以前は、入棺後に長男が綿を水で湿らし、顔を拭いた。新沂市でも年配の人が、“靈床”に安置している時に酒を湿らせた綿で顔だけを拭く。

現在は先に火葬を行うため、入棺の際に“淨面”を行うことはできない。そのため沛縣、邳州市、新沂市では火葬前、“靈床”に安置している時に行なわれている。これらの地点では“火葬”という新しい儀式が加わる際、そこで“淨面”を省いてしまうのではなく、儀式手順の変更がなされている。銅山縣では“靈床”の上で“淨面”を行うことはないという。このように何らかの要因によってそれまでの方法で儀式を行うことが困難な場合、儀式手順の変更が行われる場合と、儀式そのものが省略されてしまう場合がある。その儀式が重要と捉えられているか否かによるのであろう。

1.3.5. “送盤纏”

“盤纏”とは、死者があゝの世へ行くための費用で、“送盤纏”は紙銭や、紙製の家財、乗り物などを土地廟で燃やし、“盤纏”を死者に贈るという儀式である。出棺前日の夕方、屋外で行われる儀式であるが、季節、天候に関わらず必ず行なわれる。本調査地域では現在は土地廟がないため、村の十字路に瓦や、ダンボールで臨時に土地廟に見立てたものを作って行われる。²⁵

沛縣では出棺前日の夕方、死者の息子、孫、甥など男性親族が先に、女性親族がその後に続いて、家の南西の十字路へ行き、ラッパ、爆竹を鳴らし、“紙扎”を焼く。²⁶ 女性は来た道と別の道から帰る。

銅山縣では、現在は土地廟がないため、十字路

で土に円（直径約50cm）を描き、茶碗に土を入れ、別の茶碗で蓋をして円の中に置き、土地廟に見立てる。出棺前日の日暮れ時に家族、親族全員が“喇叭班”（8人から10数人の楽隊）を先頭に並んで土地廟に見立てた場所へ行く。この時、死者の歳と同じ数の餃子（10歳ごとに大きな餃子）と湯が入った“湯罐兒”を担いで行き、土地廟に見立てた場所に到着するまでに全部撒く。円の外に約10分間灯を灯し、紙銭に火をつける。灯が燃えている間に「○○、拿盤纏」（○○、“盤纏”を持って行って下さい）と言う。この時、○○と呼びかけるのは、同じ名字の家族で若くして死んだ人の名前で、そのような人がない場合は死者自身に呼びかける。灯が消えると円の傍で紙銭を、円の中で紙製の“錢褡子”（錢入れ）を燃やし、息子、娘は哭して3回叩頭する。戻る時は来た道と別の道を通って帰る。

邳州市でも出棺前日の日暮れに“送盤纏”を行う。土地神に捧げる紙銭を入れた籠と、死者があゝの世で使うための紙銭を入れた“褡褡”（二つ折りの財布）を持って行く。現在は土地廟がないので、十字路に4枚の瓦で臨時の廟を作って行なう。紙銭を燃やし、長男が「○○（爸、媽など）、出廟了。」（○○、廟から出ます）と叫ぶように3回呼びかけ、竹の棒に細長い白い布をつけたものを臨時の廟の内から外に引っ張り出して、紙銭、高粱の茎と一緒に燃やす。

新沂市では死亡から埋葬までの期間に土地廟へ行く“送湯”（米の入った湯を少しずつこぼしながら土地廟へ行き、紙銭を焼く）を7回、或は9回行う。²⁷ ここでも現在は土地廟がないので、十字路にダンボールで土地廟に見立てたものを作る。そこで紙銭を燃やし、土地廟に見立てたものを1周まわって叩頭する。最後の“送湯”を“送盤纏”といい、土地廟（十字路）へ行き、紙銭を燃やした後、廟に見立てたものを3回まわり、異なる道から帰る。

“送盤纏”の際、沛縣、銅山縣では男性、女性とも土地廟へ行くが、邳州市では女性は行くことができない。新沂市では“送湯”には女性のみが

行き、最後の“送盤纏”には男女とも家族全員が行く。

各市、県ともすでに土地廟が消滅しているにもかかわらず、「土地廟で死者のために紙銭を燃やす」という“送盤纏”は重要な儀式として必ず行なわれている。しかし、邳州市では現在、出棺前日の夕方に行われていた“送盤纏”を出棺と同日に行なうこともあるという。²⁸ 同日に行なう場合、午前中に親族の告別の式である“正喪”を行い、午後に行われる“出棺”との間に“送盤纏”を行なう。“送盤纏”から戻ると喪家では、参加した人々に食事を振舞うが、儀式が一日で行われるようになると食事を提供する回数も減少する。儀式の簡素化といえるだろう。

1.3.6. “出棺”

“送盤纏”の翌日、或は同日午後に出棺する。“喇叭班”を先頭に孫、息子、親族が並んで行く。沛縣、銅山縣では息子の妻、娘、孫娘、孫の妻など女性も同行するが、邳州市、新沂市では女性は墓地まで行くことができない。²⁹

出棺後、十字路、村の入り口などで一旦棺を下ろし、“奠桌”（供物を並べた卓）を置き、“路祭”という儀式を行う。邳州市、新沂市でも“路祭”までは女性も参加する。銅山縣では既婚の娘、娘婿、“結拜兄弟”（血のつながりのない義兄弟）が哭しながら棺と“奠桌”の周りを3回まわり、叩頭する。

“路祭”が終わり、再び棺が地面を離れる時、いずれの市、県とも長男が素焼の器、“老盆”を割る。この儀式は“摔老盆”といい、長男が亡くなっている場合は長男の長男（孫）が行う。³⁰ “老盆”は直径50cmほどの厚みのある濃い灰色の素焼きの器である。出棺前までの間、“老盆”は棺を安置した“靈堂”、或は“靈棚”（“靈堂”前に設置された弔問客が拝礼を行なう場所）の“奠桌”の下に置かれる。沛縣では“老盆”は置いておくだけだが、邳州市、銅山縣、新沂市では死亡後、出棺までの間、そこで紙銭を焼く。

邳州市と沛縣では“摔老盆”には「“老盆”を

割る人が死者の財産を継ぐ」というという意味があり、非常に重要な儀式とされている。しかし、銅山縣、新沂市ではそのような意味はなく、“老盆”を割ることによって、それまでに焼かれた紙銭を死者があの世に持っていき、使うことができるのだという。

“摔老盆”は死者の財産の継承者を表す儀式とする沛縣、邳州市と、あの世における死者の財産を象徴する銅山縣、新沂市とに儀式の意味づけが分かれるが、いずれも財産に関する意味があり、現在も行なわれる重要な儀式である。

1.4. 婚礼、葬礼儀式の変化

以上、徐州市周辺農村における婚礼、葬礼のいくつかの儀式、習俗について見てきた。

婚礼については、調査を行なった農村においても4、5年前からレストラン、ホテルを利用する方法が見られるようになったというが、多くは現在も自宅で行われている。新婦の女方から男方への移動の手段が轎から自動車に代る、“嫁妝”に現在の生活に合った物が加わる、新婦の婚礼衣装に赤い服だけではなく、西洋式のドレスが加わる等の変化は見られる。一方、婚礼の中で“拜堂”は重要な儀式として、自宅で行う場合だけでなく、ホテル、レストランを利用する場合もそこで行なわれる（現在、邳州市では行わない場合もあるという）。家で“拜堂”、親族への拝礼、新郎新婦が夫婦の部屋に入る“入洞房”、“開臉”を行い、レストランに移動して“喜宴”を行う場合もあり、「宴会の場所が変わっただけ」だという。

しかし、“回門”を行うまでの日数の短縮化や、“送盤纏”の同日化に見られるように、農村においても儀式の簡略化、簡素化等、変化は起こっている。また1979年から始まった「一人っ子政策」の影響により、新婦を乗り物に乗せる際など「兄弟が行う」とされている儀式でも兄弟がいなかった場合は他の方法に変化せざるをえない。葬礼の際、墓地への女性の同行が禁止されている地点でも、息子がいない場合、女性であるという理由で、娘が親の葬送、埋葬に子どもが参加できないという

ことにはせず、現状に応じて変化させている。

変化の時期として示されたのは、「文化大革命後」と「約20年前から」という時期である。今回の調査では、文化大革命時期の状況について、詳細な聞き取り調査は行なえなかったが、その時期、農村の婚礼、葬礼にも大きな変化が生じたことがうかがえる。約20年前、1980年代後半は改革開放政策開始後の時期であり、婚礼については《新婚姻法》が施行され、葬礼についても“殯葬改革”が強化されていった時期である。

葬礼において最も大きな変化をもたらしたのは「火葬」の実施である。火葬場は、1979年に沛縣、邳州市、銅山縣に、1980年に新沂市に建設された。いずれの市、県とも約20年前から火葬が一般的に行われるようになり、葬儀の儀式手順に組み込まれたという。“殯葬改革”が推進され、火葬場建設から約10年を経て、儀式手順に火葬が組み入れられることが一般化したと考えられる。それ以前は、土葬が一般的で、子孫は老人を看取り、できるだけ大きな棺に納め、盛大な葬儀を営み、埋葬するのが親孝行とされた。老年（概ね60歳以上）になると棺（“壽棺”）や“壽衣”を準備することも少なくなかった。火葬が行なわれるようになった後、“骨灰”を入棺するという新たな手順が作り出されたが、農村では棺を用いることは基本的に変らない。また、死者があの世界へ行くための費用、“盤纏”を贈ることや、“捧老盆”などの儀式についても以前と同様に行なわれている。

このような伝統的儀式、特に葬礼の準備、進行は、沛縣では“大老知”、銅山縣では“大老執”、邳州市では“大總”、“總知事”、新沂市では“執事大總”と呼ばれる人が取り仕切る（以下“大老知”とする）。誰かが死亡すると喪家の長男は“大老知”のところに直接出向き、叩頭して葬儀を取り仕切ってもらうように依頼する。

“大老知”は職業ではない。人々は“大老知”の知識と人徳に対して敬意をはらい、“大老知”はそれを誇りとして儀式全般を差配する。「礼金」が渡されることもあるようだが、あくまでも「報酬」ではなく、タバコや葬儀の間に供される食事など

の「礼」と「尊敬」のみを受け取る。

調査協力者の中にも自身が“大老知”と呼ばれる人が含まれているが、それぞれの市、県における“大老知”の人数は村によって異なるということで今回の調査でははっきりしなかった。沛縣では村に1人か2人、邳州市では住民3,400人の村に、7,8人ということで、大きな村には何人かの“大老知”がいるが、地域の中での分担が決まっているわけではない。喪家がどの“大老知”に頼みに行くかについて決まりはないが、他の村の人には頼むことはないという。農村における儀式は、“大老知”が中心となって取り仕切り、それぞれの地域の儀式の手順、方法は彼らによって伝えられてきた。“大老知”には助手となる人がおり、傍で儀式の手配、進行を手伝う中で自然に手順、方法を覚えて次に伝えていくのだという。³¹ 徐州市周辺農村における伝統的儀式は“大老知”の差配により、状況に合わせて変化をさせながら行われている。

一方、市区での葬礼は、公的な組織である“殯儀館”で行なうだけでなく、儀式の準備、進行、“壽衣”など葬礼用品の販売も行なう民間の店や会社に依頼し、行なう場合もある。徐州市内の葬儀会社では「葬儀に関しては“火葬”以外はすべて行なえる」という。看板には“民生認可”、“合法經營單位”と書かれている。徐州市の承認を受け、工商行政管理部门の營業許可書を得ていることを示しているのであろう。市区で葬儀を行なう家では、知人の紹介や、評判によって店や会社を選び、電話で依頼をする。依頼を受けた店、会社は喪家に出向き、打ち合わせを行なう。

このような民間の店や会社は農村にも10年ほど前からできてきたという。物品の販売や賃貸だけでなく、会場の設計、設置などの準備一切や、儀式の進行を総合的に請負って行なう。³² 店や会社によって行われる儀式の場合、多額の費用を使い、レストランやホテルを利用する婚礼や、生花や高価な物品を用い、派手な葬儀を行なう傾向が農村にもたらされる可能性もあるだろう。これまで代々の“大老知”によって手順や方法が伝えられ、

行なわれてきた儀式と、店や会社が請負、物品の販売やレンタルを含めて行なわれる儀式のいずれが今後、農村における主流となっていくのかわからない。しかし婚礼、葬礼の伝統的儀式は、状況に応じて手順や方法を変化させながら行なわれており、それらが一様に簡素化され、排除されてしまうことはないだろう。

注

- 1 『徐州市志』徐州市地方志編纂委員會編，中華書局，1994，p.2149.には80年代以後，政府は風俗の改革を提唱し，徐州各級政府は“殯葬改革”を推進したと記されている。『新沂縣志』新沂市地方志編纂委員會編，江蘇科學技術出版社，1995，p.492.によると，1983年1月，“殯葬改革”を行うことを決定。県人民政府は《關於實行殯葬改革的布告》を發布した。《新沂縣殯葬改革領導小組》，《新沂縣殯葬管理所》を設置し，各鄉鎮，村にも組織を作った。また，1983年から1988年までの火葬率が96%であること，封建迷信活動に反対して風俗の改革を行い，何度も省，市から“殯葬改革先進單位”の称号を受けたという記述が見られる。
- 2 「第5次人口普查2000年」に依る。<http://www.stats.gov.cn/tjsj/pcsj/rkpc/dwcrkpc/>，「中華人民共和國國家統計局」参照。
- 3 『邳縣志』邳州市地方志編纂委員會編，中華書局，1995，p.662.，『徐州市志』前掲注1，p.2146.，“合年命”とは“陰陽師”（陰陽五行によって占いをする人）に結婚する男女の相性を占ってもらうこと。相性に差し障りがなければ，結婚が決まる。“過啓東”は，“定親”儀式のことで，結婚の決定を記した文書（“啓東”）を男方，女方双方が交換すること。「婚姻登記」という法的な手続きが行なわれる以前は，この文書が結婚の証明となった。
- 4 2001年4月28日『《中華人民共和國婚姻法》修正に関する決定』が公布，施行された。改革開放政策以後，新たに出現した婚姻，家族における問題に対応すべく改定が加えられ，《婚姻法》に定められた四原則に「計画出産の実行」を加え，五原則とされた。
- 5 “生辰八字”とは，生年月日時に干支を組み合わせた八文字であり，占いに用いる。婚礼の場合は，婚礼に良い日を選ぶだけではなく，禁忌となる事柄や，新婦が乗り物に乗る際の方向なども見る。“属相”とは生まれ年の干支のことで，子，丑，寅，卯，辰，巳，午，未，申，酉，戌，亥の十二種である。
- 6 書面語では“妝奩”という。
- 7 以前は新婦の迎えには轎を用い，轎と轎かきの人を借りるのが一般的であった。新沂市では30年ほど前まで轎を貸す店があったが，現在は自動車で新婦を迎えに行く。自動車も借りるのが一般的で，賃料は300元程度である。
- 8 雄鶏を抱えて行くのは「鶏ji」と「吉ji」の発音から吉祥の意味を表すためであるという。現在は新郎が自動車で“迎親”に行くが，その際，“壓轎”の男の子は2人連れて行き，雄鶏も2羽持って行く。雄鶏は生きたものではなく，作り物が販売されている。また，女方に到着後，新婦に“磕頭”（額ずいて行う拝礼，下の者が上の人に対して行う礼）しなくてはならないので，連れて行く男の子は新郎よりも下の世代でなくてはならない。下の世代に適当な男の子がいない場合は，同世代（いとこ等）を連れて行くが，その場合は新郎よりも年下でなくてはならない。
- 9 それぞれ発音から「栗子 lì zi」は「立子 lì zi」，「棗 zǎo」は「早 zǎo」，「落花生 luò huā shēng」は「生 shēng」を連想させることから，早く子どもが生まれることを祈る習俗である。
- 10 新婦を乗り物に乗せる際に「椅子を用いる」という方法は，河南省獲嘉縣，舞陽縣，山東省金鄉縣，新泰市，棗莊市などに見られる。
- 11 朱熹『家禮』文淵閣四庫全書第142冊，p. 545.
- 12 王增永・李仲祥『婚喪禮俗面面現』齊魯書社出版，2001，p. 44.
- 13 銅山縣では斗にトウモロコシ，高粱を入れるのは，儉約して生活し，食べるのに困らないようにという意味で，鏡を置くのは邪氣祓いの意味と，新婦に反省を促すためであるという。
- 14 萬建中・周耀明著，徐杰舜主編『漢族風俗史』第5卷，学林出版社，2004，pp. 93-94.
- 15 息子，娘が両方ともいる女性が行う。この時，既婚であっても子どもがいない女性は洞房に入れない。
- 16 地方志の中には，婚礼の際，卵を子どもの象徴として用いる，或は子どもが早く生まれるようにと祈る習俗の中で用いるという記述が見られる。
 - ・“嫁妝”の中の“子孫桶”（出産の際に使われる桶）の中に5つの赤い卵を入れる。（『蘇州市志』蘇州市地方志編纂委員會編，江蘇人民出版社，1995，p. 1163.）
 - ・女方から出発する際，母親が新婦に卵を食べさせる。腹の中に子どもがいるという意味。（『武進縣志』江蘇省武進縣志編纂委員會編，上海人民出版社，1988，p. 824.）
 - ・新郎新婦が“洞房”で赤く染めた卵“子孫蛋”を食べる。子孫繁栄を象徴している。（『江寧縣志』江寧縣地方志編纂委員會編纂，檔案出版社，1989，

- p. 832.)
- 17 “回門”を行うまでの日数はいずれも“拜堂”を行う婚礼の日を1日目として数える。
 - 18 ただし毎月5日、14日、23日と、月と同じ日（3月3日、5月5日など）は“月忌日”といい、新婦が実家に帰っている間にその日が入る場合は、前日に男方に戻らなくてはならない。
 - 19 新婦の女方での滞在が翌月にわたることがないように、婚礼後30日目に迎えに行くべきところを、早めたり、遅くするなど調整をすることもするという。
 - 20 火葬場建設は沛縣では1979年（『沛縣志』江蘇省沛縣地方志編纂委員會編、中華書局、1995、p. 570.）、銅山縣では1979年（『銅山縣志』江蘇省銅山縣志編纂委員會編、中國社會科學出版社、1993、p. 661.）、邳州市では1979年（『邳縣志』前掲注3、p. 663.）、新沂市では1980年（『新沂市志』前掲注1、p. 492.）である。
 - 21 “殯儀館”は各地方政府が管轄する葬儀を扱う場所である。火葬設備を有するところもある。徐州市には現在、徐州市民政局に属する“殯儀館”が、市区に3ヶ所、豐縣、沛縣、銅山縣、睢寧縣、邳州市、新沂市に各1ヶ所あり、“殯儀車”による遺体の運搬や冷蔵、整容（遺体の洗浄、理髪等）、告別式の会場提供、火葬、墓地への埋葬、葬礼用品の販売など、葬儀に関する業務を行なっている。
 - 22 遺骨を入れる“骨灰盒”は、一般に20×30×20cm程の箱型で、木製、石製、玉製等、値段によって材料、装飾、細工に差がある。
 - 23 “公墓”は市区郊外に造られている公共の墓地。徐州市では1993年に建立され、1994年3月から埋葬業務を開始した。
 - 24 銅山縣では死者の年齢に合わせ、1歳ごとに草木灰の包みを1つ入れる。包みは10歳ごとに大きな包みにする。簡単に行う場合は中に草木灰を入れず、空の紙包みとするが、この習俗は現在も8割以上の人が行なっている。
 - 25 “土地廟”は郷土を守る地方神である“土地神”を祭った廟である。“土地神”はまた“土神”、“福德正神”、俗称“土地公公”といわれる。
 - 26 “紙扎”は紙で作られた家屋、輻、牛、馬、テレビ、ソファ、車など死者があの世で使うための物品である。これらは燃やすことによって、死者があの世に持っていけると考えられている。
 - 27 埋葬までの期間中に、親のどちらかが亡くなった時は7回、先にいずれかが亡くなっており、もう一人が亡くなった時には9回、土地廟への“送湯”を行う。
 - 28 “送盤纏”と出棺を同日に行なうことを邳州市では“連喪起”、“功一天”という。
 - 29 新沂市では5、6年前から女性も墓地までの葬送

に参加できるようになってきたという。これは「一人っ子政策」の実施により、死者に息子がなく、娘のみというケースが生じてきたためである。子がその親の埋葬に参列できないという「不孝」な事態を避けるためにこのような変化が起こっている。

- 30 邳州市では長男がいても親の死による悲しみのため、体が弱って“老盆”を割ることができない時、介添えの人が長男の頭上を越してから地面に叩きつけて割る。こうすることによって長男が割ったことになるという。
- 31 今回、調査協力者とは別に沛縣出身で婚礼、葬礼に詳しいEさん（41歳）に短時間、インタビューすることができた。彼は「自分もいつか“大老知”になるかもしれない」と話していた。“大老知”は、自分であるものではない。儀式についての知識と経験を周りが認め、敬意をはらい、そう呼ばれるようになるものなのだという。
- 32 新沂市では現在、4つの民間の店や会社があるという。

（付記）

本稿執筆に際しては、多くの方々のお力添えを頂いた。徐州師範大学文學院の蘇曉青教授には徐州市での調査、滞在全般にわたり、様々ご尽力を頂き、お世話頂いた。徐州師範大学外國語學院の房倩先生、徐娟先生には調査での通訳を、徐州師範大学文學院修士課程在籍中の許景崗、李豐、任彤、趙青、徐州師範大学外國語學院在籍中の陸曉丹の各氏には調査同行等、各方面でお世話になった。また蘇曉青教授夫人李惠芳氏には徐州滞在中、細々とお心遣いを頂いた。ここに記して心から感謝申し上げる。なお本稿は平成20年度文部科学省大学院教育改革支援プログラム「プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成」プログラムによる研究成果の一部である。